

# 機能性品種による茶産地づくり in 徳之島 ～長寿・子宝の島のお茶づくり～

所属名：徳之島事務所農業普及課

発表者名：伊地知 仁

## <活動事例の要旨>

徳之島では平成14年より機能性品種「べにふうき」による茶産地育成を進めてきたが、大手ドリンクメーカーとの契約が平成25年に終了し、取引数量の減少と荒茶価格の低下を招いていた。そこで新たな展開として、新しい機能性品種「サンルージュ」等の導入や有機栽培への取組、多様なお茶づくりへの挑戦を支援している。その結果、導入品種の面積拡大や多様な茶種生産、新商品開発が進み、新たな販路開拓が図られてきた。

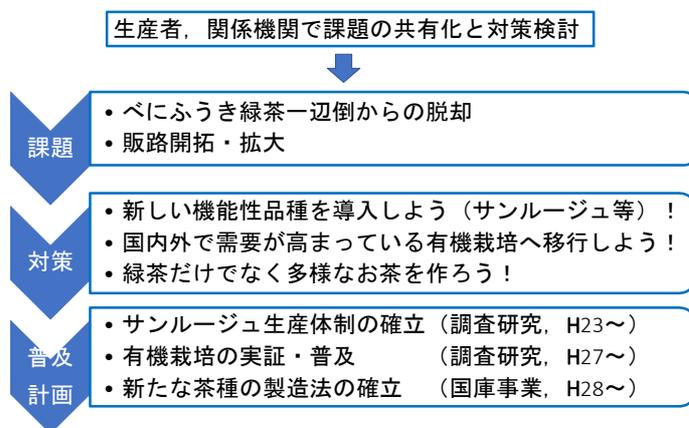
## 1 計画された活動の課題・目標と策定過程

### (1) 課題・目標と設定理由、及び活動の内容と方法

徳之島では抗アレルギー作用を有するメチル化カテキンを多く含む「べにふうき緑茶」による茶の新産地育成を進めてきたが、大手ドリンクメーカーとの契約が終了し、取引数量の減少と荒茶価格の低下を招いていた。そこで、「べにふうき緑茶一辺倒の脱却」と「販路開拓・拡大」を課題とし、茶産地育成を目指している。

新しい取組は新機能性品種「サンルージュ」等を取り上げ、九州茶業コンソーシアムの国・県の研究機関、大学、製茶メーカー、実需者などと連携して取り組んだ。

### (2) 計画の策定過程



## 2 普及活動の内容

### (1) 活動の経過

#### ア サンルージュ生産体制の確立（調査研究）

眼精疲労抑制などが期待されるアントシアニン（赤色色素）を多く含む新しい機能性品種「サンルージュ」の産地化を平成23～25年実用技術開発事業などで図った。幼木管理指導や栽培・加工法の検討、新商品開発の支援を関係機関等と実施した。

#### イ 有機栽培の実証・普及（調査研究）

平成26年12月徳之島茶振興会で有利取引などを行うため有機栽培への移行が承認された。情報収集や有機栽培下での病害虫調査、土壌調査を行い、有機栽培暦の作成に取り組んだ。現在、有機JAS認証取得に向けた申請資料作成を支援している。

#### ウ 新たな茶種の製造法の確立（革新的技術開発・緊急展開事業）

機能性品種の高品質化と多様なお茶づくりを行うため、平成28年から革新的技術開発・緊急展開事業に参加している。実証試験機などを活用し、緑茶から半発酵茶、

紅茶，てん茶など様々な茶種の生産に，九州茶業コンソーシアムの国の研究機関などと連携し取り組んでいる。品質を随時確認し，製造法の改善につなげた。

(2) 指導・支援の体制

島で唯一の茶工場である徳之島製茶を経営体事業の重点支援対象農家とし各種実証を行い，茶振興会員への波及を図っている。島内の関係者だけでなく，国・県の研究機関，大学，製茶メーカー，実需者などと連携し取り組んでいる。

### 3 普及活動の成果

(1) 課題及び目標の達成状況とその要因

ア 施肥や茶期，熟度で変化するアントシアニン含量について調査研究し，茶期毎の経時変化を解明した。

イ サンプルージュの新植面積は10haとなり，産地全体の茶園面積で17haに拡大した。栽培農家数も13戸から31戸となった。(図1)

ウ 有機栽培下でのチャノミドリヒメヨコバイ被害状況や土壌成分を調査研究し，これまでの知見と併せて「徳之島版有機栽培暦」を作成した。

エ 茶種は従来の蒸製緑茶，オーソドックス紅茶の2種から，炒蒸製緑茶，半発酵茶，CTC紅茶を加え5種となった(図2)。取引先は2社から14社に拡大した。

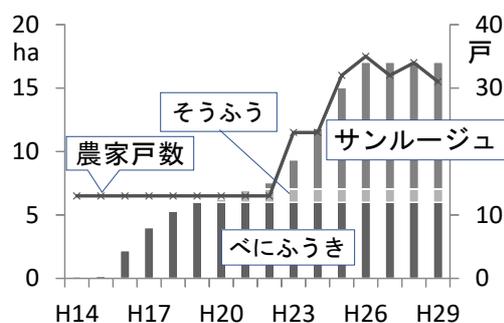


図1 品種別栽培面積と農家戸数の推移

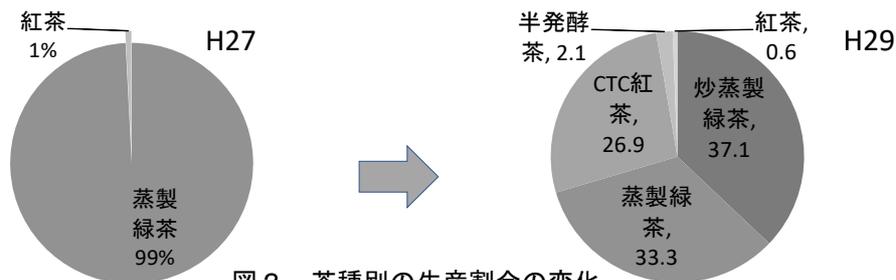


図2 茶種別の生産割合の変化

オ 「日ノ茜 (日本製紙(株))」など実需者と連携したサンプルージュの新商品開発が進み，販路が少しずつ拡大している。

カ 小売り販売額は伸びており，平成28年は26年比で約2倍となった。

キ 「徳之島紅茶」は平成29年11月に開催された「九州和紅茶博覧会in東京」で「グランプリ」を受賞し，今後の自信と知名度向上につながった。

(2) 活動に対する生産者・農家の評価

「茶種の多様化が進み，成果が出始めた」「紅茶グランプリ受賞は自信と励みになった」「有機栽培に着目したのは良かった」「取組を情報発信していきたい」

(3) 地域農業振興への貢献

夏場に収入の見込める複合経営品目の一つとして，経営安定化に貢献している。「長寿・子宝の島のお茶づくり」は徳之島の知名度向上に寄与している。

### 4 今後の普及活動に向けて

(1) 今後の課題

ア 「サンプルージュ」は契約取引などによる安定した販路拡大が必要である。

イ 有機栽培での増収や除草対策など安定生産のための技術開発が必要である。

ウ CTC紅茶など新たな茶種の品質向上が必要である。

(2) 今後の活用に向けて

今後も健康増進に役立つ機能性品種の高品質化や安定生産，国内外の販路開拓・拡大を支援し，農家所得の向上や産地の発展に努めたい。